

④1 港地区防災集団移転促進事業

受賞機関 島根県美郷町

キーワード 防災、水害、集団移転、コミュニティ

全建賞審査委員会の評価ポイント

防災集団移転促進事業を活用した全国初の災害発生前の集団移転。移転先の宅地造成や移転補償を国の河川事業や県の道路事業と連携して実施。これにより町の負担を軽減し、住民の住居移転を早期に実現できた点が評価された。

1. はじめに

江の川は、中国地方最大の河川で、広島県から島根県を流れ、日本海へ注ぐ一級河川である。地域に密着した河川であるが、これまで幾度も洪水が発生し、流域住民に大きな被害と苦勞をもたらしてきた。

島根県美郷町港地区は、支流・君谷川が本流・江の川にせき止められる「バックウォーター現象」により、平成30年、令和2年と度重なる浸水被害を受けた。江の川本川の河川改修事業の着手時期が不透明な中、被災した5戸の住民は、避難先において移転を決意した。地元住民の意向を受け、国・県・町が連携して防災集団移転促進事業を進め、令和6年3月に美郷町による高台の宅地造成が完了し、令和7年3月には住民の移転も完了した。

2. 事業の概要

本事業は、江の川水系流域治水プロジェクトによる国・県・町の連携のもとに実施されたものであり、防災集団移転促進事業の対象家屋5戸のうち、3戸は河川事業による移転補償、残る2戸は県道の浸水対策(嵩上げ)事業による移転補償が行われた。

また、移転先の造成についても、国土交通省が河川事業の築堤材採取のために山林の掘削を実施し、高台の平地を形成した。その後、美郷町が防災集団移転促進事業による宅地造成工事を行った。



家屋補償状況

移転地造成工事

3. 事業の成果

地元住民は、地域コミュニティの維持を最優先に考え、移転対象5戸が引き続き集落内で居住することを希望していた。しかし、地区内には5戸が集団で移転できるような高台の適地がなく、希望を叶えるには、地区内の山林を掘削するなどにより、新たな宅地を確保する必要があった。

財政状況が厳しい美郷町にとって、山林の掘削による宅地造成などにかかる町の負担は、防災集団移転促進事業を進める上での大きな課題となっていた。しかし、国や県の事業と連携することにより、町の負担を軽減することができた。

このようにして、地区内の高台に新たな宅地を確保できたため、移転対象の住民は、住み慣れた場所で浸水被害を心配することなく、今後も暮らし続けることができた。



地元高台への移転完了 (令和7年3月)



移転者主催による完了報告会

4. おわりに

令和7年3月に地元の港集会所において、移転者主催による事業完了報告会が開催され、国・県・町など、関係者が参加する中、移転完了の喜びを分かち合った。

多くの困難があったが、国・県・町の行政機関が連携し、安全・安心な居住地の早期確保と事業費の削減を図ることができた。